

## 4. 女性も男性もだれもが共感できる男女共同参画

### (1) 男性、子どもにとっての男女共同参画に向けた取組の推進

#### (2) 男女共同参画の理解の促進

##### <これまでの取組み>

- 男性、子どもにとっての男女共同参画に向けた取組の推進
  - ・相談員向け男性相談マニュアルの作成、市町村への配布、活用依頼
  - ・ドーンセンターでの男性向け啓発講座の実施
- 男女共同参画の理解の促進
  - ・大学生等を対象としたキャリア支援セミナー、中高生を対象としたキャリア支援シンポジウムの実施



##### <課題>

- 「性別役割分担意識」について、前回調査より「同感する」人の割合は減少しているが、全国と比較すると高い数値となっている。
  - 府における男性職員の育児参加休暇取得者率について目標数値に達していない。
  - 男性が家事に要する時間は女性と比べて非常に短い。
  - 「『大阪府の新たな男女共同参画プラン』に関するアンケート」によると、休日、平日ともに家事に従事する時間が「30分未満」の男性の「家事をしない理由」は「家事をする気にならないから/面倒だから」(32.7%)、「趣味や自分の個人的な楽しみ方を大切にしたいから」(31.1%)が高かった。
- また、どのようなきっかけがあれば家事をするようになるかと聞いたところ、「家事をすることについての配偶者、パートナーの思いやり、励まし」が最も高かった(47.1%)。

##### 平成26年度「府民意識調査」結果によると

- ・「性別役割分担意識」については、「同感する」人の割合は45.5%と前回調査より5.6%減少しているものの、全国(44.6%)よりも高い。特に若い世代の男性で「同感する」が高くなっている(20代男性で54.2%)。【問3,P24】
- ・男性が家事に要する時間は30分未満が平日で54.8%、休日で43.3%となっている。女性は平日は3時間以上、休日は5時間以上が最も高い。一方、平日に仕事に要する時間が8時間以上の男性は51.2%、女性は25.8%となっている【問6,P49~】。
- ・「男性が家事、育児、介護、地域活動などに参加するために必要なこと」は「夫婦、パートナー間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」(39.1%)が男女とも最も高く、次いで「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて社会的評価を高めること」(34.8%)となっている。【問16,P99】



##### <方向性>

##### ○男性に対する意識啓発

性別による固定的な役割分担意識を見直し、男性自身が家事や育児に関わることを当然とする意識の改革が必要である。

##### ○子どもの頃からの男女共同参画教育

- ・男女がともに対等な社会の構成員であるという意識を育てるために、家庭と連携しつつ、引き続き男女平等を推進する教育や学習機会の充実を図る必要がある。
- ・性別に関わらず理工系分野への関心理解を深めるためのキャリア教育等の取組みが必要である。

##### ○男女共同参画に向けた家庭生活や地域生活の重要性

特に男性にとって、育児や介護等の家庭生活での役割をどのように位置づけるかを見直す必要がある。収入を伴わない家事労働や地域活動も仕事と同じく生活の基盤を構成する重要なものであるという認識の上で、男女を問わず、そういった活動への参加について社会的評価を高める必要がある。